

国際化学肥料ニュース (2017年4月)

肥料業界の2017年4月動態

- * インド化学肥料協会は2015～2016年度(2015年4月～2016年3月)の化学肥料生産量、輸入量と消費量データを公表した。

インド国内生産量は尿素2450万トン、DAPと化成肥料1220万トン、硫安60万トン、塩安5万トン。輸入量は尿素847.4万トン、DAP600.8万トン、加里肥料324.3万トン。一方、国内消費量は尿素3063万トン、DAP911万トン、化成肥料882万トン、過リン酸石灰425万トン、塩化加里247万トン。

一方、近年インド国内化学肥料消費量が増え続けているが、政府の政策と肥料業界の努力により国内の化学肥料生産量が増えたため、尿素やDAPの輸入量が減り続けている傾向が明らかになった。但し、加里資源がほとんどないため、これからも加里肥料の輸入量が増えるだろう。

- * タイの化学肥料輸入量のデータが発表された。2016年タイが471万トンの化学肥料を輸入した。その内訳は尿素が2.13%増の190万トン、硫安が51.72%増の20万トン、DAPが21.74%増の60万トン、塩化加里が15.24%増の69万トン、化成肥料が10.99%減の130万トン、その他の肥料が46.3%減の3万トン。尿素は主にサウジアラビア(49%)、カタール(22%)、マレーシア(10%)、クウェート(8%)、DAPは主に中国(66%)、オーストラリア(22%)、サウジアラビア(7%)から輸入される。

- * フィリピンの化学肥料消費量が発表された。年間尿素消費量116.3万トン、硫安62.5万トン、塩化加里83.9万トン、硫酸加里2.1万トン、化成肥料198.9万トン。硫酸加里を除き、ほかの化学肥料の国内生産量が少なく、ほとんど輸入に依存している。

- * インド政府が2017～2018年度(2017年4月～2018年3月)の化学肥料補助金制度を発表した。総額は前年度と同じ103.23億ドルであるが、窒素肥料の補助に重点を置く。尿素補助金が20%増額、硫黄成分補助金が9.6%増額、塩化加里補助金が逆に20%減額、DAP補助金が据え置きである。

- * 南米のペルーは昨年12月から今年2月まで4ヵ月にわたる大雨と洪水の影響で、リン鉱石の採掘と輸送が止まった。ペルー産りん鉱石は主にアメリカMosaic社に供給するもので、その供給停滞により、Mosaic社が急遽モロッコOCP社から2船のりん鉱石を購入した。但し、5月からりん鉱石の採掘が再開される見込みである。

- * 3月31日～4月6日、インドMMTC社が尿素の入札を行った。4月14日現在の情報によれば、落札数量73.2万トン、落札価格はCFR229.5～231.5ドル/トンである。その内訳はイラン産45万トン、中東産9万トン、中国産18.6万トンである。前回3月17～24日のインドIPL社の尿素入札結果に比べ、最低落札価格が約3～7.5ドル/トン上がったが、落札数量が2.8倍も増えた。
- * ロシアAcron社はロシア国内12地域と化学肥料供給契約を締結した。これは毎年政府の監督で行う慣例行事である。今年の供給数量は80万トン、昨年より23%増える。その内訳は50万トン硝安と30万トン高度化成肥料である。
- * IFA（国際化学肥料工業協会）の最新統計によれば、2016年世界の加里肥料（塩化加里と硫酸加里）生産量が2.3%減の6310万トン、そのうち硫酸加里生産量が10%減の670万トン。一方、加里肥料の国際貿易量が0.5%減の4750万トン。
- * インド政府の化学肥料補助金の確定に伴い、インドのDAP輸入が活発になった。IPL社はCFR368ドル/トンでサウジアラビアから15万トンDAPの購入を決定した。また、NFL社はDAP入札でCFR368～369.75ドル/トンで10万トンDAPを購入する予定である。
- * 中国国内化学肥料需要減と価格低迷の影響で、技術力とブランド力の弱い中小化成肥料メーカーは倒産が多発する。山東省臨沂県は化学肥料、特に化成肥料の生産基地で、100社以上の化学肥料メーカーが寄り集まって、生産能力が1800万トンを有するが、2016年の実生産量が700万トンしかなかった。昨年より既に半分以上のメーカーが倒産又は生産を停止して、稼働しているのは40数社しかない。なお、倒産と生産停止しているのはすべて生産能力5～10万トンの中小メーカーある。中国政府は2020年に肥料消費量が増加から削減の方針を転換して、これから化学肥料消費量がさらに減らさせ、肥料メーカーの倒産が加速するだろう。
- * インド新聞の報道によれば、インド政府の2017～2018年度の肥料補助金制度では塩化加里の補助額が20%削減され、114ドル/トンにする。それに伴い、インドの加里肥料販売業者は小売価格の引き上げについて政府関係部門と協議している。販売業者の値上げ行動に対して、インド農民肥料組合は価格の上昇幅を抑えるように輸入商社と卸業者と協議している。

- * 中国税関の速報によれば、2017年第1四半期の化学肥料輸出が非常に不振で、前年同期より14.1%減の495万トン、輸出金額も21.6%減の14.3億ドル。一方、肥料輸入量が38.9%増の329万トン、金額0.8%減の8.07億ドル。
- * 中国と主要加里肥料メーカーとの2017年輸入契約に関する協議は4月中旬から始まった。消息筋によれば、主要加里メーカーは2016年のCFR219ドル/トンから30ドル/トンの値上げを要求しているが、中国側は値上げ幅が10ドル/トン程度に抑えるよう応酬している。2017年1~3月中国が約300万トン塩化加里を輸入して、在庫がいっぱいであるため、協議は具体的な進展がない。
- * アメリカ Bloomberg News 社の報道によれば、インド政府と化学肥料業界は尿素の国内生産を強化し、2022年に尿素の輸入を無くすことを目論んでいる。

インド政府の統計データによれば、2016年インドの国内尿素消費量3200万トンであったが、国内生産量2450万トン、自給率76.6%、不足分はオマーン、中国とイランからの輸入尿素に依存して、年間600~800万トンを輸入し、世界最大の尿素輸入国である。自給率を上げるため、インドは新工場建設のほか、既存工場の設備更新と拡張、閉鎖された工場の再開などを通じて、2022年に尿素輸入量をゼロにする計画。
- * 3月に続き、4月も尿素の国際市場価格が下落している。主な理由は、アメリカテキサス州とアイオワ州に新しい尿素工場の竣工で、5月以降の尿素輸入量が大幅に減少する見込みである。従って、4月下旬の尿素CFRアメリカ価格が186ドル/トンまで低下している。

主要な尿素輸入国の需要低迷で4月20日と21日に開札したエジプトの2件大粒尿素販売入札結果ではFOB価格が190ドル/トンしかない。4月中旬南ヨーロッパに輸出したエジプト産尿素のFOB価格が215ドル/トンに比べて大きく下落した。また、中国では、4月下旬のFOB価格が210ドル/トン、大粒尿素のFOB価格も215~221ドル/トンに下落した。
- * 4月のりん安国際市場は低迷が続いている。3~4月にインドが行った3回のDAP入札結果はNFL社がCFR366~368ドル/トン、IPL社がCFR365ドル/トン、Sabic社がCFR360ドル/トンである。現在、インド向けDAP価格のボーダーラインはCFR360ドル/トンである。一方、南米ではDAPのCFR価格はブラジルが370~385ドル/トン、アルゼンチンが370ドル/トンである。

- * 中国上場している 23 社の化学肥料メーカーの 2016 年業績が公表した。23 社のうち黒字を計上したのは 12 社だけで、23 社の合計業績が赤字 46.6 億ドル（約 6.8 億ドル）、歴年最悪である。窒素化学肥料 13 社のうち黒字は 4 社、りん酸化学肥料 3 社のうち黒字が 1 社だけである。加里肥料 1 社が黒字であるが、純利益が 39%減少した。化成肥料 6 社全部黒字であるが、純利益も 16.8%減少した。業績不振の原因は生産能力の過剰と輸出不振による化学肥料の価格低迷である。
- * 4 月 24 日、中国窒素肥料産業協会は 2016 年の窒素肥料生産能力の削減結果と 2017 年の削減計画を発表した。2016 年にアンモニア 227 万トン、尿素 353 万トンの生産設備を削減したが、新規生産ラインの稼働もあり、尿素生産能力が 7700 万トンを保っている。2017 年にさらにアンモニア 340 万トン、尿素 300 万トンの生産設備を廃棄する予定である。

大手各社の営業業績

- * モロッコ OCP 社は 2016 年業績を公表した。化学肥料の国際価格の下落で、業績が振るわなかった。売上高が 12.3%減の 43 億ドル、EBITDA(減価償却前営業利益)が 17.8%減の 13 億ドル、純利益が 52%減の 6 億 7200 万ドル。
2016 年、OCP 社は 2 本計 200 万トンのりん酸肥料生産ラインを完成した。また、2017 年にさらに 2 本計 200 万トンのりん酸肥料生産ラインを完成する予定である。2017 年末にはりん酸肥料生産能力が 1,200 万トンに達する。
- * 中国陽煤化工公司は 2016 年業績を発表した。陽煤化工は国営の石炭メーカーではあるが、尿素の大手メーカーでもある。2015 年尿素生産量 425.62 万トン、国内シェア 12.35%を占める。2016 年尿素生産量が 5.95%増の 450.96 万トンであったが、尿素価格の低迷で、赤字となった。売上高が 6.25%減の 165.92 億人民元（約 24.1 億ドル）、利益が 9.09 億人民元（約 1.32 億ドル）の赤字である。
- * ロシア Acron 社は 2016 年業績を公表した。化学肥料生産量が 14%増の 649 万トン、販売量が 13%増の 635 万トンであるが、価格低迷の影響で、売上高が 3%減の 893.6 億ルーブル（約 15.9 億ドル）。コスト削減に功を奏して、営業利益が 53%増の 255.3 億ルーブル（約 4.5 億ドル）。
- * ロシア PhosAgro 社は 2016 年業績を公表した。化学肥料生産量と販売量が 9%増であったが、価格低迷の影響で、売上高が 1%減の 1877 億ルーブル（約 28 億ドル）、営業利益が 64%増の 599 億ルーブル（約 11 億ドル）。

- * ノルウェーの Yara 社が 2017 年第 1 四半期の業績を公表した。生産量ではアンモニアが 6%減の 188 万トン、尿素が 2%減の 131.2 万トン、硝安が 3.4%増の 161.7 万トン、化成肥料が 12%増の 161.7 万トン。一方、販売量では尿素が 1.1%減の 115.8 万トン、硝安が 5%増の 151.1 万トン、化成肥料が 10%増の 239.9 万トン。化学肥料の価格低迷とエネルギーコストの上昇で、EBITDA（減価償却前営業利益）が 16.4%減の 32.16 億クローネ（約 3 億 8600 万ドル）、純利益が 40%減の 16.92 億クローネ（約 2 億 300 万ドル）

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * モロッコの OCP 社は所有の世界最大の Khouribga りん鉱山と Jorf Lasfar りんハブ工場の間にもう 1 本のパイプラインを建設し、選鉱したりん鉱石をスラリーの形で運ぶことを計画している。Khouribga りん鉱山と Jorf Lasfar りんハブ工場の距離は約 180km、現在の輸送能力を 1800 万トンから 3800 万トンに増やす。OCP 社の話によれば、鉄道輸送に比べ、パイプライン輸送コストは 90%削減することができるという。
- * イギリスの Sirius Minerals 社は、今年第 2 四半期からノースヨークシャー郡にあるポリハル石鉱山を建設することを発表した。ポリハル石はカリウム、マグネシウム、カルシウムの硫酸塩複塩鉱物で、K₂O 含有量 15%前後である。第 1 期工事は 2021 年に完成する予定で、完成後の生産能力は鉱石採掘量年間 1000 万トン、予定投資額 12 億ドル。採掘した鉱石は主に輸出に供する予定である。なお、2 期工事を含むと投資額は 29 億ドルに跳ね上がるが、鉱石採掘量は年間 2000 万トンになる。
- * オーストラリア Sald Lake Potash 社は Gold Fields Salt Lake の加里資源を開発するプロジェクトの着工を決定した。まず、3500 万ドルを投資して、生産能力硫酸加里 4 万トンのパイロット工場を建設し、2018 年に完成する予定である。
- * アメリカ国内に新たに 2 ヶ所の窒素化学肥料工場が完成した。ノルウェー Yara 社がアメリカテキサス州 Freeport に建設するアンモニア 75 万トンと尿素工場が竣工し、今年下半期から正式に稼働する。また、アイオワ州 LEE 郡にエジプト OCI 社が 14 億ドルを投資して建設した窒素化学肥料工場も竣工した。

その他

- * ベトナム化学肥料メーカーらがベトナム政府に輸入化成肥料のアンチダンピング調査を開始するよう要請した。4 月 13 日ベトナム工業貿易省競争管理局はその申請書類を受理したと発表した。調査項目は化成肥料のほか、MAP、DAP も含まれている。背景

には中国産廉価化成肥料の攻勢を受け、ベトナムが2016年に計425.3万トン化学肥料を輸入して国内化成肥料産業が大打撃を受けている。

- * 4月24日、ノルウェーPorsgrunn市にあるYara社の窒素肥料工場に火事が発生したが、人員の死傷がなかった。出火原因と被害程度が不明である。当該工場の生産能力はアンモニア50万トン、硝酸アンモニウムカルシウム80万トン、化成肥料220万トンである。